

経済・金融  
フラッシュ1月 BOE 金融政策委員会:50bp の  
追加利下げで政策金利は 1.5%に

経済調査部門 主任研究員 伊藤 さゆり

TEL:03-3512-1832 E-mail: ito@nli-research.co.jp

イングランド銀行は7～8日に金融政策委員会(MPC)を開催、50bp の利下げを決めた。10月の緊急利下げからの累計 350bp の利下げ幅で政策金利は 1.5%と BOE 創設以来の低水準となった。

声明文では、世界経済とイギリス経済に対する厳しい認識とインフレ率は一段と鈍化するとの見方を示した上で、「(2.5%という)政策金利の水準では中期的に2%というインフレ目標を下回る大きなリスクが残る」と追加利下げの理由を説明した。

2月4日、5日開催予定の次回のMPCで議論の叩き台となる「インフレ報告」2月号では、前号(11月号)よりもさらに厳しい景気見通しが示され、ゼロ金利政策や量的緩和政策についても議論されることになりそうだ。

**( 声明文では世界経済とイギリス経済に対する厳しい認識を示す )**

イングランド銀行(BOE)は、7～8日に金融政策委員会(MPC)を開催、50bp の利下げを決めた。10月の緊急利下げからの累計 350bp の利下げ幅で政策金利は 1.5%と 1694年の BOE 創設以来の低水準となった(図表1)。

声明文では、世界経済は「急激で同時進行の下降局面にある」、イギリス経済は「2008年10～12月に景気の後退は一層進み、2009年1～3月期も大幅な落ち込みは続く」という厳しい見方を示した。また、「家計と企業の融資のアベイラビリティは低下しており、貸出を促す一層の対策が必要」との認識を明らかにした。この点は、利下げ転換後も貸出の鈍化傾向が続いていることに加え(図表2)、1月2日に公表した「金融機関サーベイ」で金融機関が延滞率の上昇を見込み(図表3)、慎重な貸出態度を崩していないことを踏まえたものと思われる(図表4)。

インフレ率は、11月に前年同期比 4.1%と鈍化傾向が続いたが、先行きも「エネルギー、食品価格の押し上げ圧力の緩和と(12月1日からの)付加価値税率の一時的な引き下げの直接的な影響でさらに鈍化する」との見方を示した。

その上で、「最近の金融緩和と景気対策、ポンド相場の大幅な減価は経済活動を多いに刺激する」が、「(2.5%という)政策金利の水準では中期的に2%というインフレ目標を下回る大きなリスクが残る」ため、「1.5%への利下げが必要と判断した」と追加利下げの理由を説明した。

**( 議事録は今月21日公開、次回MPCでは新たな「インフレ報告」が叩き台に )**

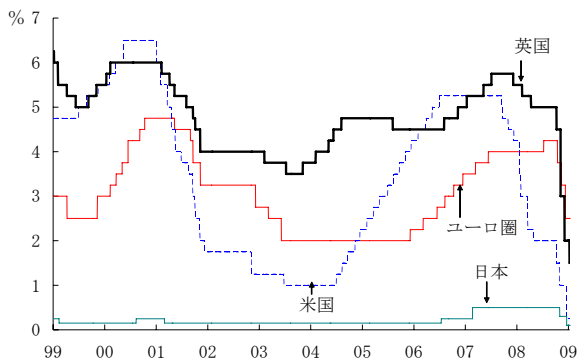
今回のMPCの議事録は1月21日に公表される。昨年9月まではMPCの9人の委員の間でも

見解の相違が見られたが、連続利下げ局面に入った10月以降は全員一致での決定が続いている。議事録では今回の利下げ幅を巡る議論や表決の内訳を、追加利下げのピッチを占う材料として注目されよう。

2月4日、5日開催予定の次回のMPCでは、「インフレ報告」2月号（一般公開は2月11日）が議論の叩き台となる。雇用調整の加速による住宅市場と内需の冷え込みが予想され、前回（11月号）よりもさらに厳しい景気見通しが示されることは間違いない。

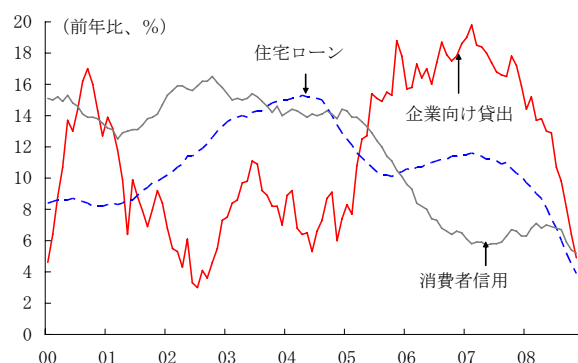
連続大幅利下げでBOEの政策金利も下限に近づいてきた。次回の「インフレ報告」ではゼロ金利政策や量的緩和政策についても議論されることになろう。

図表1 BOE政策金利



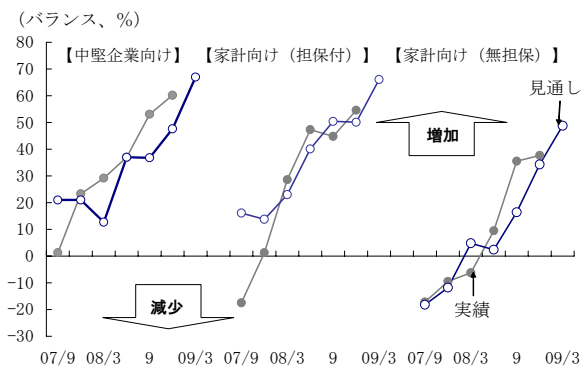
(資料) BOE

図表2 金融機関貸出増加率



(資料) ONS

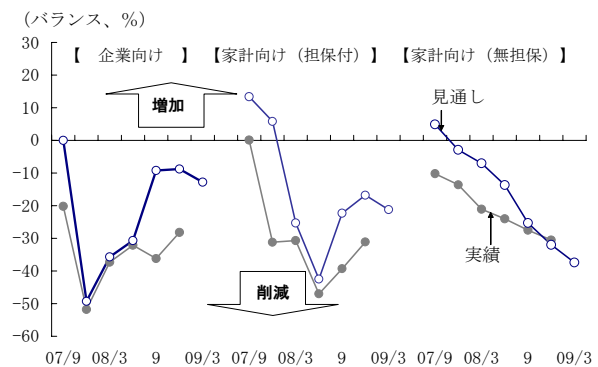
図表3 金融機関サーベイ（延滞率）



(注) 増加と回答した金融機関と減少と回答した金融機関の割合の差

(資料) BOE

図表4 金融機関サーベイ（貸出量）



(注) 拡大と回答した金融機関と縮小と回答した金融機関の割合の差

(資料) BOE

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。